

## 6.3 施工計画及び供用の計画

### 6.3.1 施工計画

#### (1) 事業の工程

事業の工程は、表6.3-1に示すとおりです。

本事業では、用地取得を令和4年度(2022年度)から、道路工事については平面構造を令和3年度(2021年度)、トンネル構造を令和5年度(2023年度)、橋りょう構造を令和4年度(2022年度)から着手する予定です。

計画道路は、工区を二つに分けて施工する計画です(資料編10ページ参照)。トンネル構造は東側から掘削します。トンネル構造以外は、基本的に道路敷地の中央部に4車線の車道を整備し、その後、現在暫定整備されている南多摩尾根幹線の車道部に歩道・植樹帯等を整備し、完了となります。道路の供用開始は、令和11年度(2029年度)を予定しています。

表6.3-1 事業の工程(予定)

項 目			令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)
用地取得				■	■						
道路 工事	平面構造	1工区	■	■	■						
		2工区		■	■	■	■	■			
	トンネル 構造	1工区			■	■	■	■	■	■	■
		橋りょう 構造	2工区		■	■	■	■	■		

#### (2) 施工手順

主な施工手順は、図6.3-1に示すとおりです(資料編1ページから8ページまで参照)。

なお、工事の作業時間は、平面構造及び橋りょう構造については、原則として昼間を予定しています。トンネル構造については、掘削工は昼間と夜間の作業を予定していますが、その他の工種については、原則として昼間を予定しています。

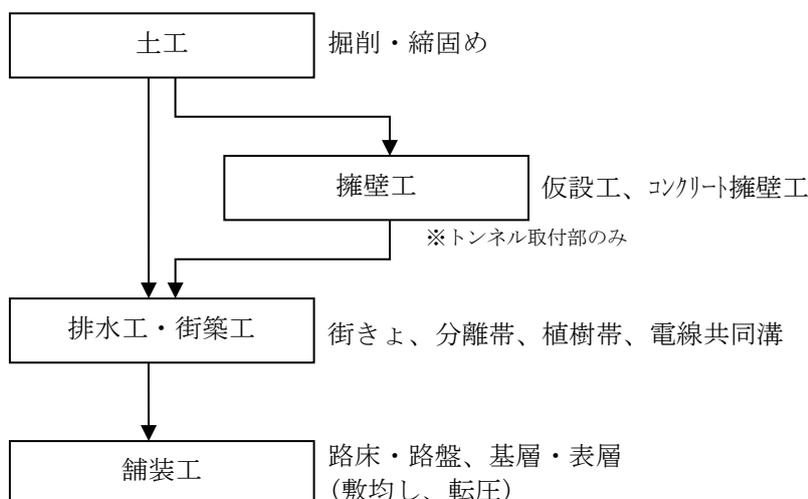


図6.3-1(1) 主な施工手順(平面構造)

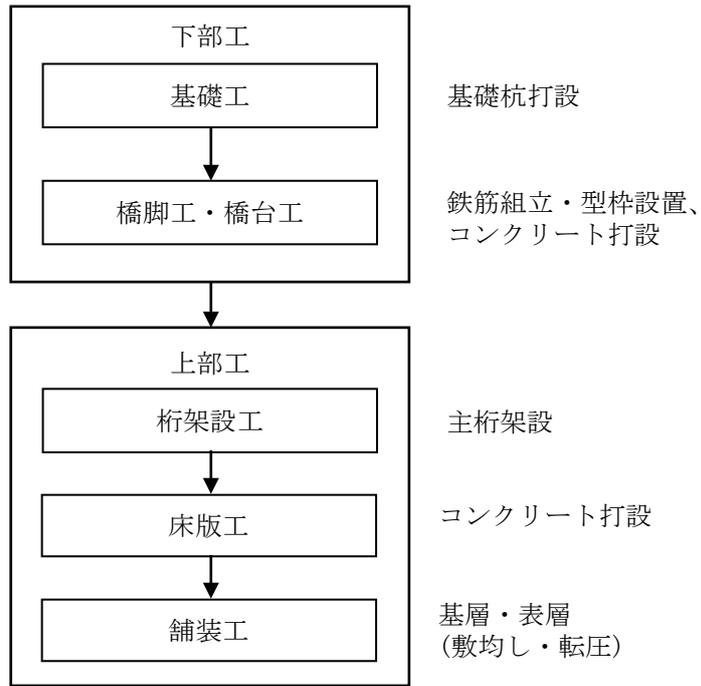


図6.3-1(2) 主な施工手順(橋りょう構造)

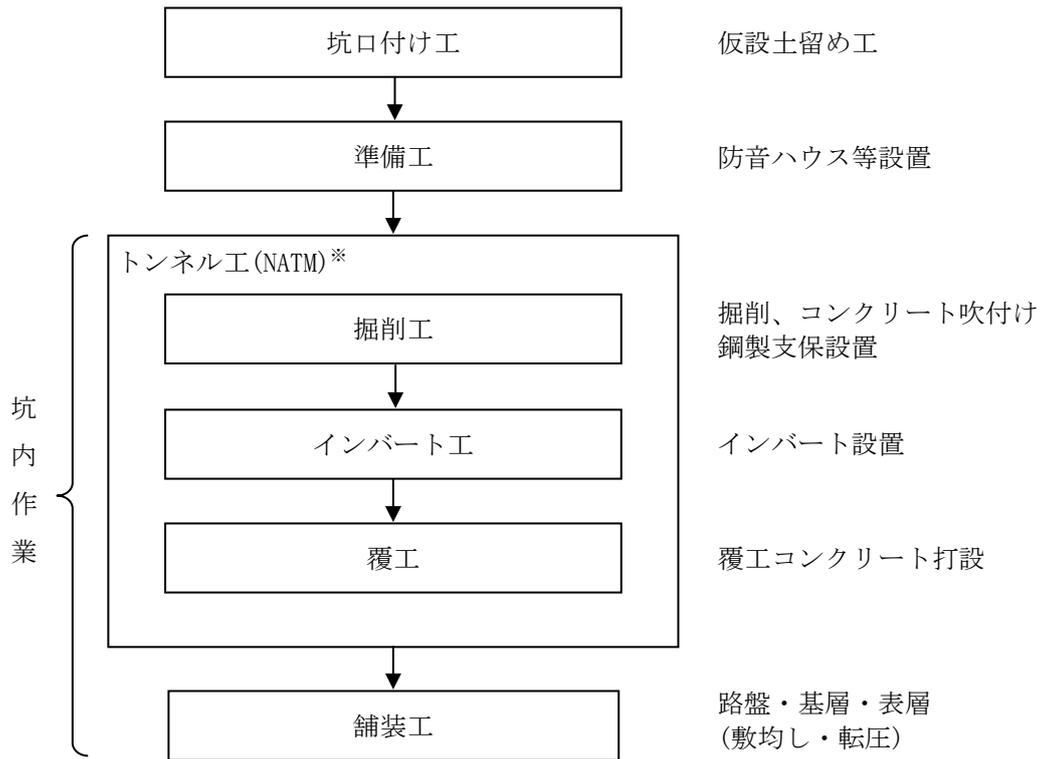


図6.3-1(3) 主な施工手順(トンネル構造)

※ New Austrian Tunneling Method の略で、掘削した壁面にコンクリートを吹き付け、表面を安定させながら、現場計測による管理の下にトンネルを掘進させる工法(資料編6ページから8ページまで参照)

工事用車両の走行ルートは、図6.3-2に示すとおり、以下の①から⑤までのルートを想定しています。

- ① 都道町田調布線分合流部から都道町田調布線を経由し多摩東公園交差点（その後②③へ）
- ② 多摩東公園交差点から府中町田線
- ③ 多摩東公園交差点から南多摩尾根幹線
- ④ 稲城中央公園交差点から多摩3・3・28号(上谷戸大橋通り)
- ⑤ 稲城福祉センター入口交差点から南多摩尾根幹線

各走行ルートにおける工事用車両の現況交通量に対する割合は、最大で約5.5%程度（工事用車両352台/12h÷現況交通量6,397台/12h）となります（資料編11ページから13ページまで参照）。標準区間については、工区のピークを分散させる等の配慮をしています。

トンネル等区間については、掘削工は昼間と夜間の作業を予定していますが、夜間作業時のトンネル掘削土は坑口部の施工ヤード内に仮置きし、土砂搬出の工事用車両は昼間の走行とします（施工ヤードの位置は資料編9ページ参照）。

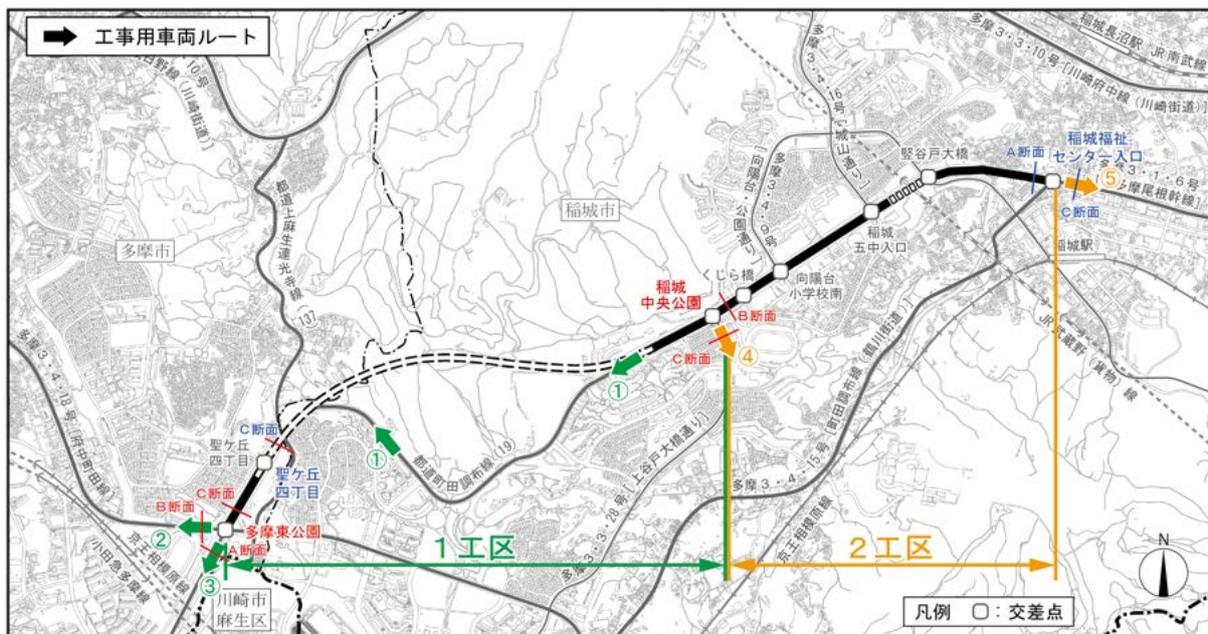


図6.3-2 工区割と工事用車両ルート①～⑤

### (3) 主な建設機械

主な建設機械及び作業内容は表6. 3-2に示すとおりです。複数の作業を同一箇所で行うことがないように配慮した結果、同時稼働台数の最大数は、舗装工及びトンネル工における3台としています。

表6. 3-2(1) 施工内容及び主な建設機械(平面構造)

工種	作業内容	建設機械(規格)	稼働台数(台)	同時稼働台数(台)
土工	掘削・締固め	バックホウ(クローラ型)(平積0.6m <sup>3</sup> )	1	2
		ブルドーザ(15t)	1	
擁壁工	仮設工	アースオーガ併用油圧入杭打機	1	2
		ラフテレーンクレーン(25t吊)	1	
	コンクリート擁壁工	コンクリートポンプ車(90~110m <sup>3</sup> /h)	1	2
		コンクリートミキサ車(10t)	1	
排水工・街築工	街きよ、分離帯、植樹帯	コンクリートミキサ車(10t)	1	2
		バックホウ(クローラ型)(平積0.6m <sup>3</sup> )	1	
	電線共同溝	バックホウ(クローラ型)(平積0.2m <sup>3</sup> )	1	2
		ラフテレーンクレーン(25t吊)	1	
舗装工	路床・路盤(敷均し・転圧)	モータグレーダ(3.1m)	1	3
		ロードローラ(10~12t)	1	
		タイヤローラ(8~20t)	1	
	基層・表層(敷均し・転圧)	アスファルトフィニッシャ(2.4~6.0m)	1	3
		ロードローラ(10~12t)	1	
		タイヤローラ(8~20t)	1	

表6.3-2(2) 施工内容及び主な建設機械(橋りょう構造)

工種	作業内容	建設機械(規格)	稼働台数(台)	同時稼働台数(台)	
下部工	基礎工	振動型オールケーシング	1	2	
		クローラークレーン(50~55t吊)	1		
	橋脚工・橋台工	鉄筋組立・型枠設置	ラフテレーンクレーン(16t吊)	1	1
		コンクリート打設	コンクリートポンプ車(90~110m <sup>3</sup> /h)	1	2
コンクリートミキサ車(10t)	1				
上部工	桁架設工	主桁架設	トラッククレーン(100t吊)	1	1
	床版工	コンクリート打設	コンクリートポンプ車(90~110m <sup>3</sup> /h)	1	2
			コンクリートミキサ車(10t)	1	
	舗装工	基層・表層(敷均し・転圧)	アスファルトフィニッシャ(2.4~6.0m)	1	3
			ロードローラ(10~12t)	1	
タイヤローラ(8~20t)			1		

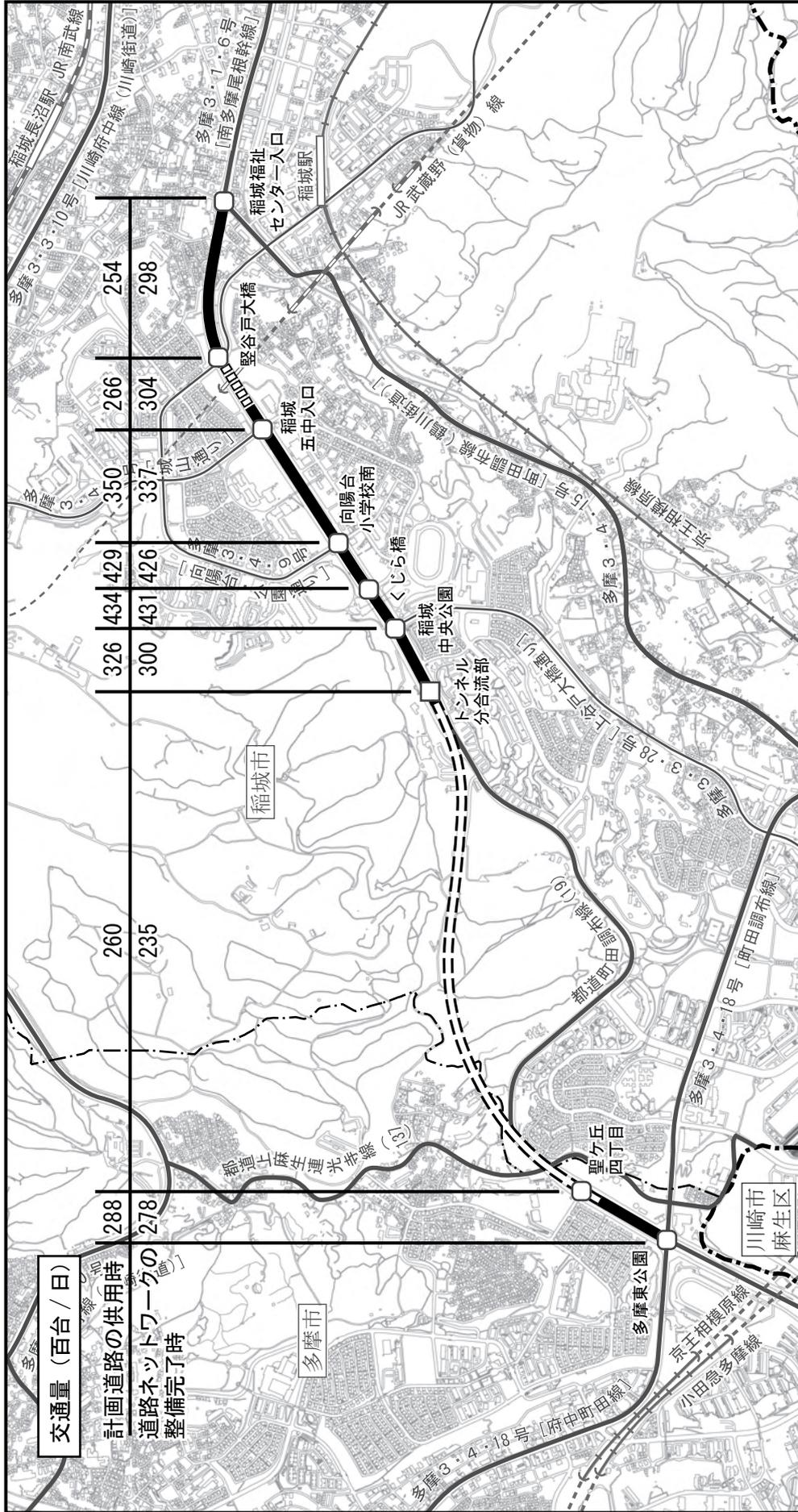
表6.3-2(3) 施工内容及び主な建設機械(トンネル構造)

工種	作業内容	建設機械(規格)	稼働台数(台)	同時稼働台数(台)		
坑口付け工	仮設土留め工	ロータリーバックホウ(クローラ型)型55kW級	1	2		
		バックホウ(クローラ型)(平積0.6m <sup>3</sup> )	1			
準備工	防音ハウス等設置	ラフテレーンクレーン(25t吊)	1	2		
		バックホウ(クローラ型)(平積0.6m <sup>3</sup> )	1			
トンネル工	掘削工(坑内作業)	掘削	自由断面トンネル掘削機(200~240kW級)	1	2	
			ホイールローダ(2.3m <sup>3</sup> 級)	1		
		コンクリート吹付け	コンクリート吹付機(8~22m <sup>3</sup> /h級)	1		2
			コンクリートミキサ車(10t)	1		
	鋼製支保設置	ドリルジャンボ(150kg級)	1	2		
		クレーン付トラック(2.9t吊)	1			
	インバート工(坑内作業)	インバート設置	コンクリートポンプ車(90~110m <sup>3</sup> /h)	1	2	
			コンクリートミキサ車(10t)	1		
覆工(坑内作業)	覆工コンクリート打設	スライドセントル	1	3		
		コンクリートポンプ車(90~110m <sup>3</sup> /h)	1			
		コンクリートミキサ車(10t)	1			
舗装工	路盤(敷均し・転圧)	モータグレーダ(3.1m)	1	3		
		ロードローラ(10~12t)	1			
		タイヤローラ(8~20t)	1			
	基層・表層(敷均し・転圧)	アスファルトフィニッシャ(2.4~6.0m)	1	3		
		ロードローラ(10~12t)	1			
		タイヤローラ(8~20t)	1			

### 6.3.2 供用の計画

計画交通量は、「平成22年度全国道路・街路交通情勢調査(道路交通センサス)」の自動車起終点調査による将来ODデータに基づき、将来の道路ネットワークに配分することにより推計を行いました(資料編14ページから19ページまで参照)。

計画交通量推計の対象時点は、計画道路の供用時と、道路ネットワークの整備完了時としました。計画交通量は、図6.3-3に示すとおりです。



凡例

- 計画道路 (平面構造)
- ≡≡≡ 計画道路 (トンネル構造)
- 計画道路 (橋りょう構造)
- ⋯⋯⋯ 都県界
- - - - - 市界
- 道路 (主要地方道・一般都道)
- 道路 (計画道路と交差する主な市道)
- 交差点
- ≡≡≡ 鉄道



図 6.3-3 計画交通量